

INFORMATION

公開同朋会(7月第二土曜日)

7月11日 13時から15時30分

13:00 勤行

13:20 住職法話・前住職法話

14:10 ラテン打楽器を使って
リズムを楽しむ

演奏 伊藤久典さん

曲 『風になりたい』 他

14:50 茶話会

持ち物 念珠・勤行本

「同朋会ってどんな会？」を広く皆様にお伝えしたい！と毎年7月に企画している公開同朋会。今年は住職・前住職の法話と共にジャズフェスにも毎年出演されているラテンフュージョンバンド「Bonda Latina SON」パーカッション担当の伊藤さんと一緒に音を楽しみたいと思います。ぜひお出かけください。



ぼうもりのひとりごと

徳泉寺に嫁いで25年。人生の約半分をお寺で過ごしています。変わりゆくものと変わらないもの。変えてはいけないものに思いを馳せたとき、平和な世界を願う気持ちが自然と起こってきます。

一人ひとりの命が精一杯生きられる「ともに」歩んでいける世界を25年後につないでいけたらいいな、と切に願います。

前住職法話「歎異抄第五章」

「弥陀をたのむのが念仏」

どうしても日本の仏教は古来からの祖霊信仰が混ざっているので亡くなった方のことは生きている者で供養しなければならぬと捉えてしまいます。「父母の孝養のため」(この孝養という字は生きているときは「こうよう」と読みますが、亡くなってからは「きようよう」と読み供養を意味します。)だからお寺に来てお経をあげてもらって、るんじやないか、と考えてしまいますがそこから進んでもう一步、父母を心配させない生き方をしていく、仏となった先祖に生き方を訪ねていく。こう切り替えるのは大変難しいと感じています。同じように、念仏も亡くなられた人の供養のための呪文ではないのです。

住職法話「釈尊が世にいられたわけ」正信偈より

如来所以興出世 唯説弥陀本願海

(訳) お釈迦様が世に出てくださったのは、ただ阿弥陀仏の本願海を説くためです。

迷いの道である六道を行ったり来たりしている私達は、どの人も一人として比べることなく尊い命を生きている、そのことに目覚めていく道にお釈迦様は立たれました。仏になるとは目覚めるということ。誰か一人が仏になっていくということではなく、どの人も浄土に生まれ往く、どの人も一緒に救われていく、そのことを説くためにお釈迦様は世にいられたのだと、親鸞聖人は受けとめました。

六月同朋会より